

音楽科学習指導案

日時 平成20年7月4日(金) 1校時 第2音楽室
学級 2年3組(男子19名、女子17名 計36名)
指導者 松場道子

1 題材名

「日本の歌に親しもう」 ～浜辺の歌～

2 題材について

(1) 生徒観

本校生徒は、合唱活動を好み、音楽の授業に意欲的に取り組んでいる。先生やパートリーダーの指示に協力的に取り組み、課題を解決する力は持っているが、自ら課題を見つけたら、他の人との交流から発見したことを自分に生かし、高めていく力が不足している。日本の音楽において、1年生では「さくらさくら」を歌ったり、箏による演奏を行い、日本音楽の特徴を感じ取り、情景をイメージしながら表現する学習を行った。まだまだ日本の音楽に対して経験不足であることから、学習する視点を与えながら、深めさせていきたい。

(2) 教材観

日本歌曲の美しい旋律・歌詞を持つ楽曲に親しみを持って表現しようというものである。学習指導要領の2・3年生の目標である「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる」に基づき、日本の歌を学習することによって、「A 表現 ア 歌詞の内容と曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」「イ 曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと」「キ 音色・リズム・旋律・和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること」「ク 速度・強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現をすること」を取り上げ表現力を高め親しんでいくものである。

「浜辺の歌」の美しい旋律や歌詞の内容から、イメージを膨らませて表現させたい。また、言葉の抑揚と強弱の結びつきを感じて表現することを重点としたい。

(3) 指導観

「日本の歌」を学習するにあたり、1年生の「さくらさくら」を取り上げた時、歌詞を理解して歌ったり聴いたりした時、情景が目の前に広がってくることで、つまり楽曲のイメージを膨らましながらか表現するということを学習した。その経験を生かし、「浜辺の歌」において、歌詞の内容や旋律の動きからイメージを膨らませること、言葉の抑揚と強弱の関係の結びつきを学習することによってさらに表現する力が身につくと考える。

合唱活動する場では、リーダーを中心として練習を進めたり、リーダーの指示に従う学習形態が多く設定される。パートのまとまりや合唱曲を仕上げるにあたっては非常に効果的な学習形態ではあるが、個を育てる(自分の考えを持ち、他の考えを共有する学習)ことにおいては、個の変化を自分自身つかみにくい。そこで、一斉指導、グループ学習を取り入れ、個の学びが広がるような学習形態を考えたい。

3 「自分の思いや考えを見つめ、自分を変えさせていく学び方」の構想

(1) 「自分を見つめる」場の構想

総論にある自分の考えは、他との交流から新たなものが生まれ変化していくと考える。この交流の方法は、音楽の学習において「グループ学習」「パート練習」といった少人数のもの、また、一斉指導の中でも可能である。まず、第一に「自分の考えを持つ」ことを大事にしたい。

この題材において、自分を見つめる学習内容を次のように考える。

- 1年生時の「さくら さくら」の学習の復習をする。・・・特徴を確認する
- 課題設定の場面で、自分なりの考えを持つ
- 自分の考えとともに、他の人の考えを聞くことで、自分が考えた内容との比較し、他の良さを受け入れ、更に自分の視野を広げる。

(2) 「自分を見つめる」評価のあり方

授業の中で、学習シートを活用し、自分の考えを記録し、他の考えも記録しながら、自分を見つめ変化していく様子を感じさせたい。

- 評価の学習シートを記入させる。(文章で詳しく書けるように)

- 4 題材の指導目標
- 歌詞の内容や曲想、言葉の抑揚、強弱、旋律の動きの関わりをとらえ曲にふさわしい歌唱表現に意欲的に取り組む。
 - 歌詞の内容や曲想、言葉の抑揚、強弱、旋律の動きの結びつきを感じ取って、表現を工夫する。
 - 歌詞の内容や曲想、言葉の抑揚、強弱、旋律の動きを理解して、歌唱表現の技術を身につける。

5 指導計画
「日本の歌に親しもう」 ～浜辺の歌～

- 1校時：歌詞の内容や曲想を理解し、旋律の動きに気をつけて歌う。
- 2校時：言葉の抑揚と強弱との結びつきを感じとって歌う。（本時）

6 評価規準と指導の重点

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
歌詞の内容を理解し、情景をイメージしながら、発表したり表現している。言葉の抑揚と強弱の結びつきについて、意欲的に取り組もうとしている。	歌詞の内容を理解し、イメージを膨らませ表現を工夫している。言葉の抑揚と強弱の結びつきを感じ取り、自分なりの表現を工夫している。	歌詞の内容を理解し、イメージを膨らませて表現している。言葉の抑揚と強弱の結びつきを理解して歌唱表現している。

7 本時について

(1) 目標

言葉の抑揚と強弱の結びつきを感じて表現しよう

(2) 指導の構想

1年生時に「赤とんぼ」の学習をした時に、言葉の抑揚と強弱の結びつきについては学習をしている。が、実際に既習曲を例に出して（レッツ サーチ フォー トゥモロー 他）言葉の抑揚と強弱の結びつきを明確に示したい。理解できたことで、浜辺の歌の歌詞を何度も繰り返し音読をして、歌詞の抑揚をつかむ。メロディとの結びつきを実際に歌いながら確認していく。（楽譜は、強弱の入っていないものを渡しておく）

楽譜の中の強弱を自分で考えてみる。（クレッシェンド、強弱記号等指定をして）黒板に自分の考えた強弱記号を示す。（他の人の考えを聴き交流をする）他の良いところは取り入れて、自分が考えた言葉の抑揚と強弱の「浜辺の歌」を表現する。旋律の動きから感じ取って自分なりの強弱をつけることも予想される。それも気づきということで、認めていく。

〈3〉 具体の評価規準

おおむね満足できると判断できる状況 (B)	十分満足できると判断されるキーワード (A)	努力を要する生徒への支援の手だての例	評価の方法
言葉の抑揚と強弱の結びつきを感じ取って、表現を工夫している。	言葉の抑揚と強弱の結びつきを感じ取って、表現を工夫している。自分なりの表現の工夫をして発表している。	自分なりに考えを持つことを大事にすること、他の発表から、言葉の抑揚と旋律の動きを感じ取るように取り組ませる。	観察 発言 発表 学習シート

(4) 展開

段階	生徒の活動	教師の指導・支援	研究に関わる留意点・備考
1 前時の確認	<p>1 前時の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら」を歌う。 ・「浜辺の歌」を歌う。 ・歌詞の内容を再確認 <p>・既習曲から、言葉の抑揚と強弱の結びつきを感じ取る。</p> <p>・感じたことを発表する。 〈交流〉</p>	<p>1 前時についてのふり返りの発問をする。</p> <p>「レツサートフォウトゥモロー」 「時の旅人」等を例にして確認させる。</p>	<p>研究に関わる留意点・備考</p> <p>学習シートへの記入 ・情景を浮かべて歌えているか。</p> <p>学習シートへの記入 自分なりの、言葉の抑揚と強弱の結びつきを感じ取り記入する 〈考えを持つ〉</p>
2 課題設定	<p>言葉の抑揚と強弱の結びつきを感じて表現しよう</p>		
3 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤とんぼ」から、言葉の抑揚と強弱、旋律の動きを感じ取り表現をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読を行い、言葉の抑揚に強弱がついていることを理解させる。 	<p>学習シートへの記入</p>
4 課題取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「浜辺の歌」を朗読する。 ・「浜辺の歌」を歌い、自分で楽譜に強弱記号を入れて、自分が考える表現の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の朗読・教師の朗読から、伝えたい言葉を取り上げていく。 ・強弱記号は、教師から示し、生徒が取り組みやすいようにする。 	<p>自分の考えを持つ</p> <p>強弱記号と共に、何故そこにその強弱記号を入れたのか考えを文章で書いておく。</p>
5 他との交流 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人が考えた言葉の抑揚と強弱記号の発表を聞き、みんなで歌う。 何故そのような工夫をしたか 工夫することで強調したかったこと 楽譜と説明を加えて発表する。 出来れば独唱 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫がうまく出来ない時は、アドバイスをしていく。 ・どうだったか発問する 	<p>〈他との交流〉</p> <p>学習シートに記入 どうであったか 自分の考えとの比較</p>
6 まとめ	<p>「浜辺の歌」を生徒の工夫したものでみんなで歌う。 共有</p>	<p>感じ方や、表現の工夫がそれぞれであって良いということ。それを共有して音楽を創りあげることできるし、一人で表現することもできる。 歌唱表現では、言葉の抑揚と強弱は結びついており、工夫をして表現していくと自分の気持ちも歌に込められるし、聴き手にも伝わるものだということを伝えたい。</p>	<p>学習シートへの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが持てたか ・他との交流から発見があったか ・言葉の抑揚と強弱の関係が理解できたか
7 次時予告		<p>言葉の発音の仕方、発声にきをつけて歌おう</p>	